

第 144 回東葛しぜん観察会

そっと覗いて見よう身近な冬の自然

遠藤 鏡子（柏市）

日 時：2018 年 2 月 4 日（日）10～12 時 天候：曇りのち晴れ

場 所：根戸小学校周辺の林や畑（我孫子市）

参加者：大人 12 名、内 子ども 1 名、指導員 18 名

担当指導員：鈴木(俊)、遠藤(真)、遠藤(鏡)

今回の観察会は我孫子駅から歩いて 15 分ほど先にある根戸の森で観察会を行いました。寒さは厳しいものの、下見した時に心配していた残雪は幸いすっかり消えており、ラッキーな観察会日和でした。

集合場所に指定した我孫子駅で 皆で打ち合せと待ち合わせ。するとそこにヒラッと舞い降りたのはなんとイソヒヨドリではありませんか。早めに到着した参加者も珍しそうに眺め、今日の観察会への期待も高まります。待ち合わせ場所から観察地まで街の中を通りながら、根戸の地形や街並みの昔と今の変化について、地元に住居の鈴木さんが説明してくれました。

車と自転車の往来に注意しながら根戸森を歩いていくと、大きなクヌギの木が。夏には樹液にたくさんの虫が集まっていたクヌギも今はひっそりと立っているだけ、と思いきや、木の根元に降り積もった枯葉をかき分けてみると、たくさんのワラジムシが集まって冬越しをしていました。参加者「うわっ、気持ち悪い」と言いつつも目は意外に興味深々。その後、畑の中 畑道を歩いていくと、あちこちにウツギの木がありました。ウツギは昔、畑と畑の境界線の目印として植えられたらしく、今は枯れ木のように見えますが、春には真っ白な花が咲いてとても綺麗ですよ、と咲いた頃の写真を見せながら説明しました。畑を抜け、道を横切ると今度は大きく成長したイヌザクラが見えてきました。イヌザクラの木の地面の周辺も観察すると今度はあちこちに枝が散乱しています。これは落枝と言ひ、木が効率よく光合成を行うために木が自己剪定を行う現象で、クスノキなどの常緑樹にもよく見られるそうです。

この周辺にはよく、野ウサギが現れるらしく、畑のあちこちに足跡やウサギの糞が落ちていて、今回は残念ながら本物には遭遇できませんでしたが、とても自然豊かな場所だということが想像できます。

参加者は地元の我孫子市民の方が多かったと聞いていますが、開発は進んでしまったけれど、まだ豊かな自然が残っていることに驚いた、新しい発見があつてとても面白かった、とおっしゃっていました。



クヌギの下の落葉の中に小さな虫… たくさんのワラジムシ